

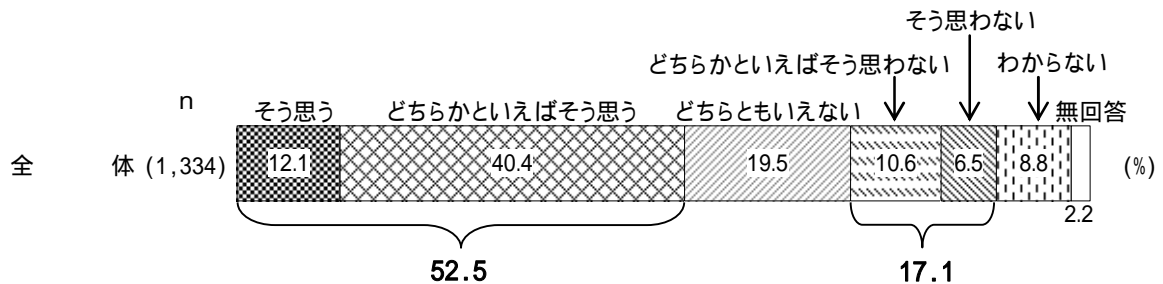
3 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

『そう思う(計)』が5割を超える

問17 あなたは、自分が安心して子育てできる環境にあると思いますか。子育て中の方は自身のことをお答えください。お子さんがいらっしゃる方や、すでに子育てを終えられた方は、ご家族や近所の方など、身の回りの子育て世代を想定してお答えください。(は1つ)
この設問では、「子育て」をおおむね18歳までの子どもを育てることと定義しています。

<図表3-1> 安心して子育てできる環境

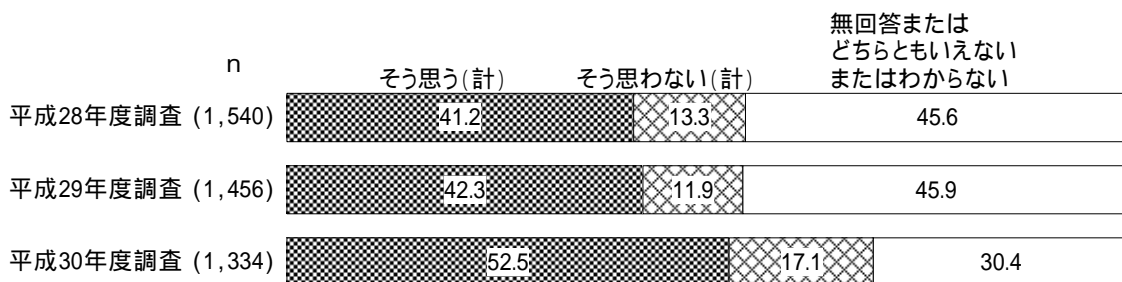


() 平成30年度調査から、回答方法と「子育て」の説明を設問に追加した。

自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.1%)と「どちらかといえばそう思う」(40.4%)を合わせた『そう思う(計)』(52.5%)が5割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.6%)と「そう思わない」(6.5%)を合わせた『そう思わない(計)』(17.1%)は約2割となっている。(図表3-1)

[参考] 平成28年度・平成29年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



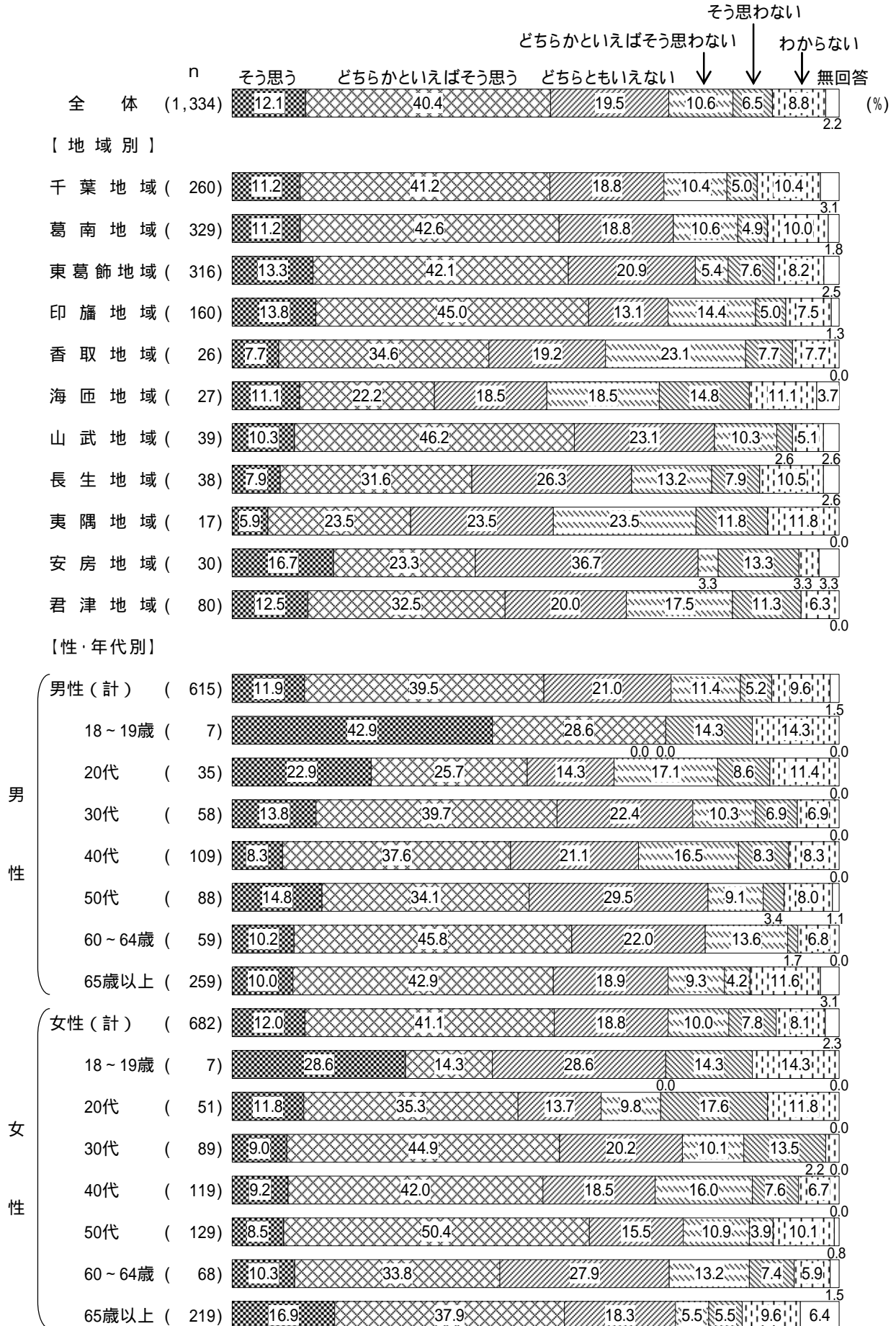
【地域別】

地域別にみると、『そう思わない(計)』は「夷隅地域」(35.3%)が3割台半ば、「海匠地域」(33.3%)が3割を超え、「君津地域」(28.8%)が約3割で高くなっている。(図表3-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない(計)』は女性の20代(27.5%)が約3割、男性の40代(24.8%)が2割台半ばで高くなっている。(図表3-2)

<図表3 - 2> 安心して子育てできる環境 / 地域別、性・年代別

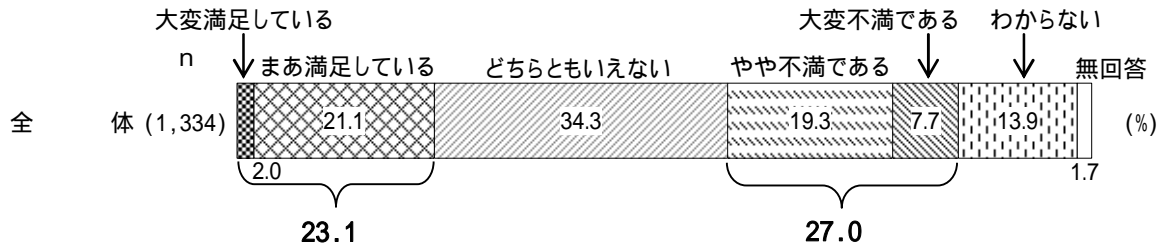


（2）お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

『満足している（計）』が2割を超える

問18 あなたは、お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策についてどうお感じですか。若年層の方は、ご家族や近所の方など、身の回りの高齢者を想定してお答えください。（は1つ）

<図表3-3> お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

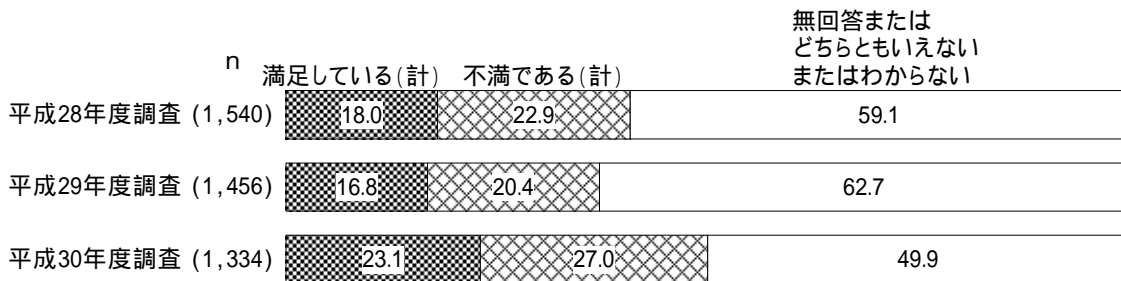


（ ）平成30年度調査から、回答方法の説明を設問に追加した。

お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(2.0%)と「まあ満足している」(21.1%)を合わせた『満足している(計)』(23.1%)が2割を超えている。

一方、「やや不満である」(19.3%)と「大変不満である」(7.7%)を合わせた『不満である(計)』(27.0%)は約3割となっている。(図表3-3)

〔参考〕平成28年度・平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



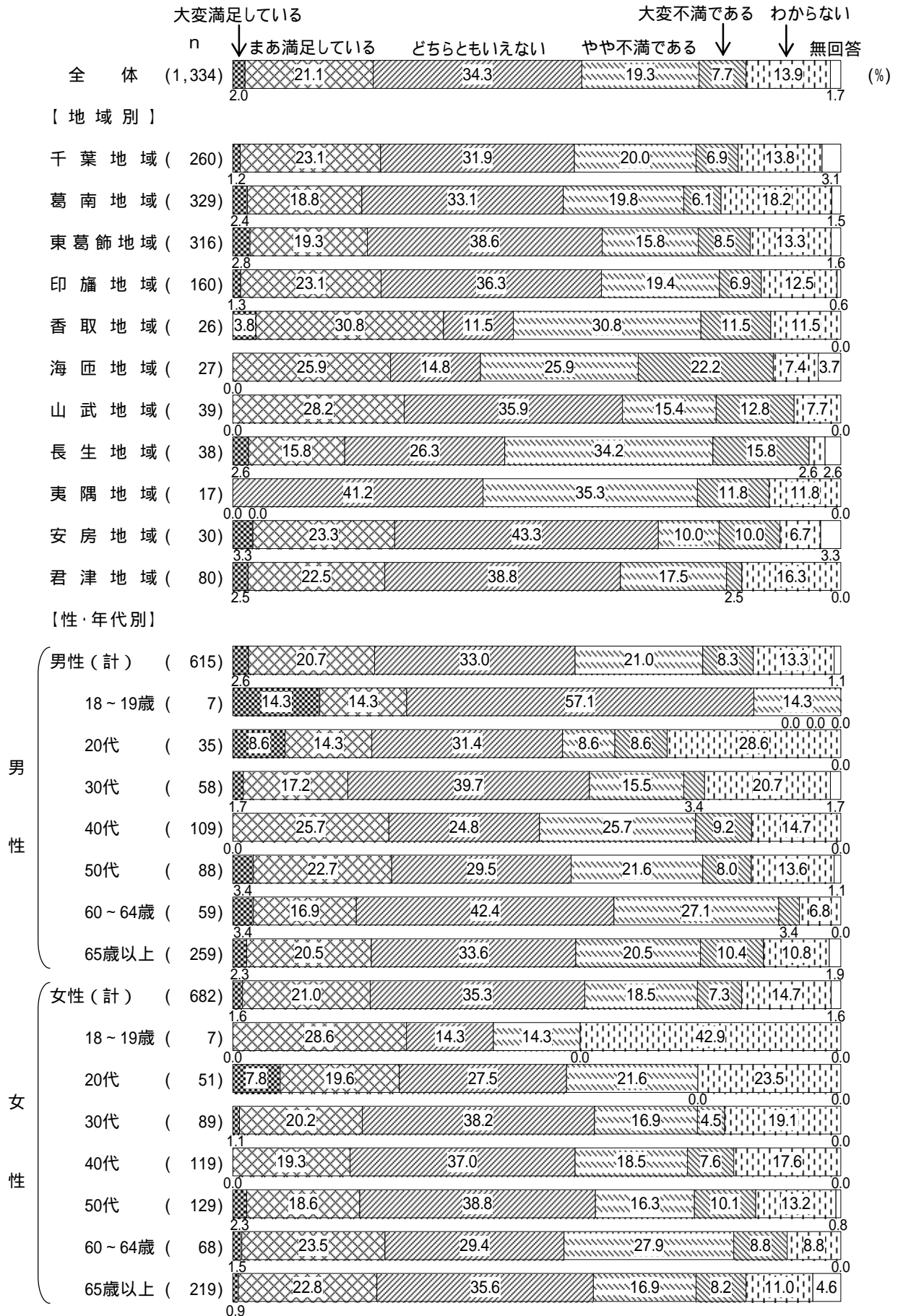
【地域別】

地域別にみると、『不満である(計)』は“長生地域”(50.0%)が5割、“海匠地域”(48.1%)が約5割で高くなっている。(図表3-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表3-4)

<図表3 - 4> お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について / 地域別、性・年代別

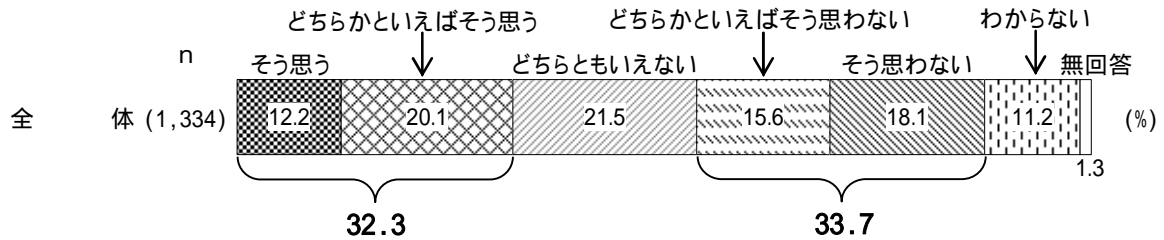


（3）介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

『そう思う（計）』が3割を超える

問19 あなたは、自分が介護の必要な状況になっても、現在お住まいの自宅や地域で暮らし続けられると思いますか。（は1つ）

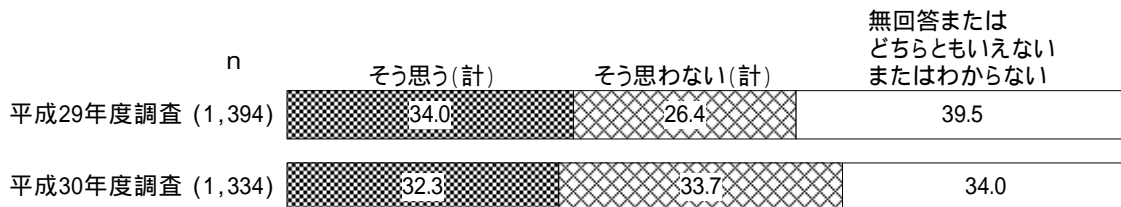
<図表3 - 5> 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか



自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.2%)と「どちらかといえばそう思う」(20.1%)を合わせた『そう思う(計)』(32.3%)が3割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.6%)と「そう思わない」(18.1%)を合わせた『そう思わない(計)』(33.7%)は3割台半ばとなっている。(図表3 - 5)

〔参考〕平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



平成29年度調査は、「第55回県政に関する世論調査」の調査結果を掲載

【地域別】

地域別にみると、「そう思う」は“山武地域”(23.1%)が2割を超えて高くなっている。

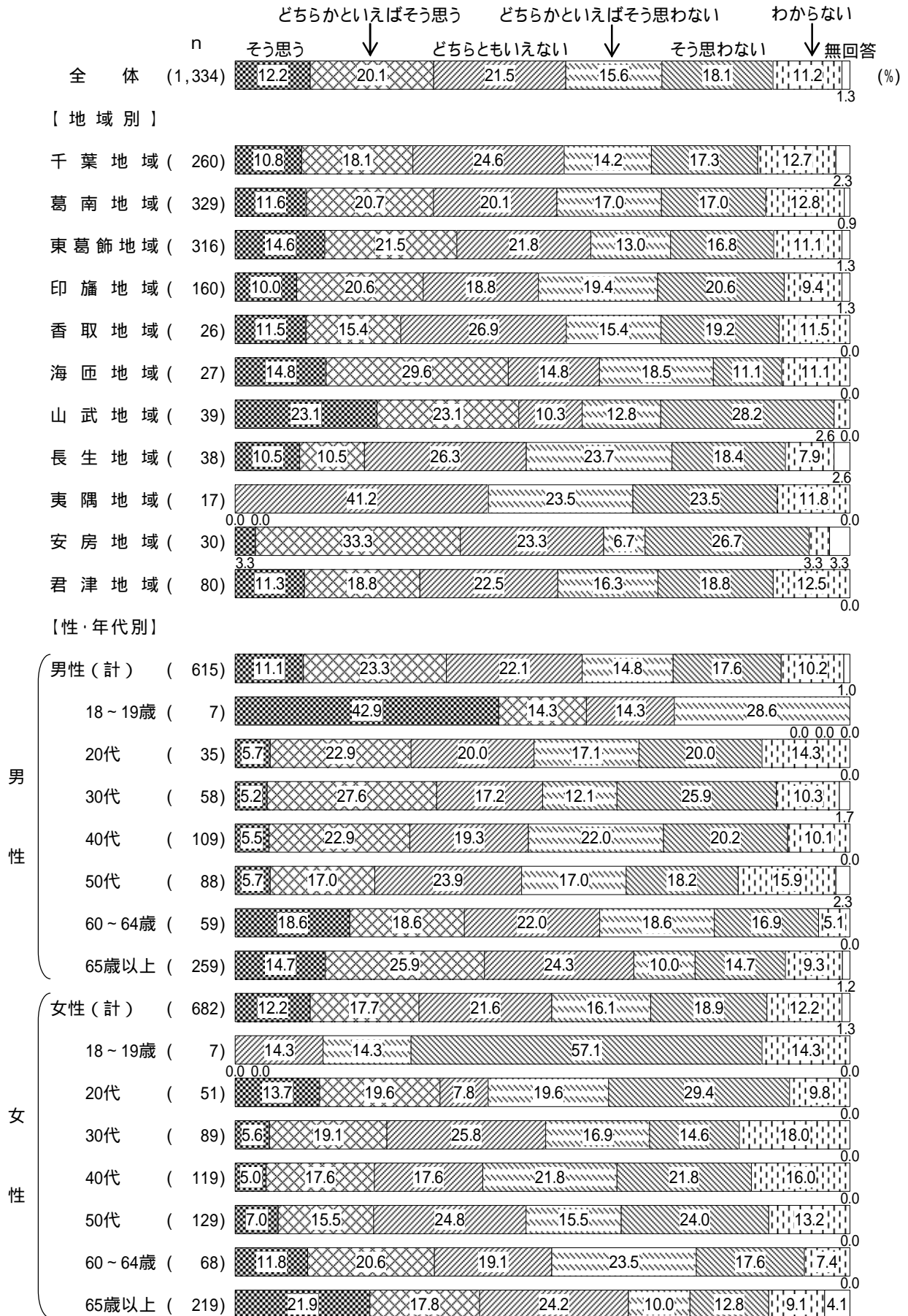
(図表3 - 6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は男性の65歳以上(40.5%)が4割、女性の65歳以上(39.7%)が約4割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の20代(49.0%)が約5割、女性の40代(43.7%)が4割台半ばで高くなっている。(図表3 - 6)

<図表3 - 6> 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか / 地域別、性・年代別

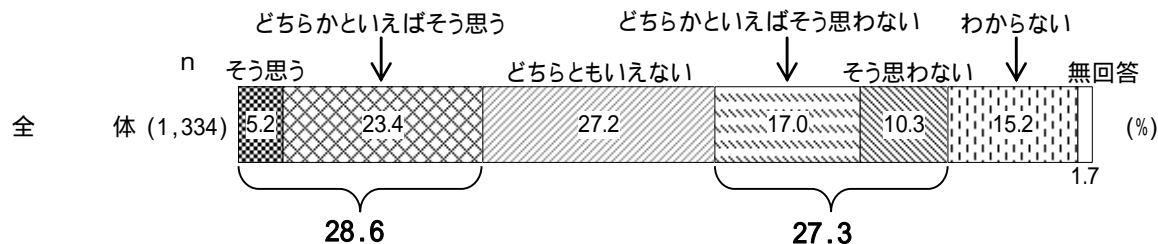


（４）高齢者の社会参加について

『そう思う（計）』が約3割

問20 あなたは、千葉県に住む高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。若年層の方は、ご家族や近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。（は1つ）

<図表3 - 7> 高齢者の社会参加について

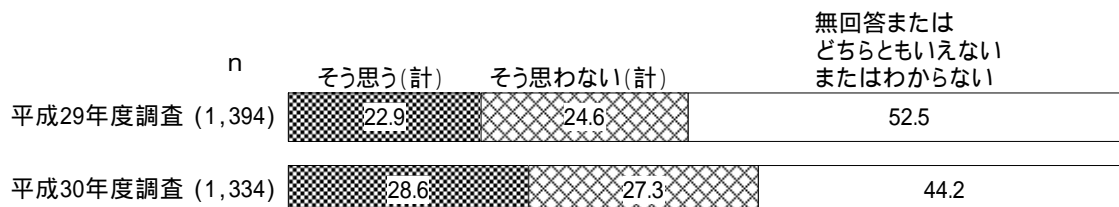


（ ）平成30年度調査から、回答方法の説明を設問に追加した。

高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.2%)と「どちらかといえばそう思う」(23.4%)を合わせた『そう思う(計)』(28.6%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(17.0%)と「そう思わない」(10.3%)を合わせた『そう思わない(計)』(27.3%)は約3割となっている。(図表3 - 7)

〔参考〕平成29年度の同様の項目による調査結果との比較(単位: %)



平成29年度調査は、「第55回県政に関する世論調査」の調査結果を掲載

【地域別】

地域別にみると、『そう思う(計)』は“安房地域”(46.7%)が4割台半ばで高くなっている。

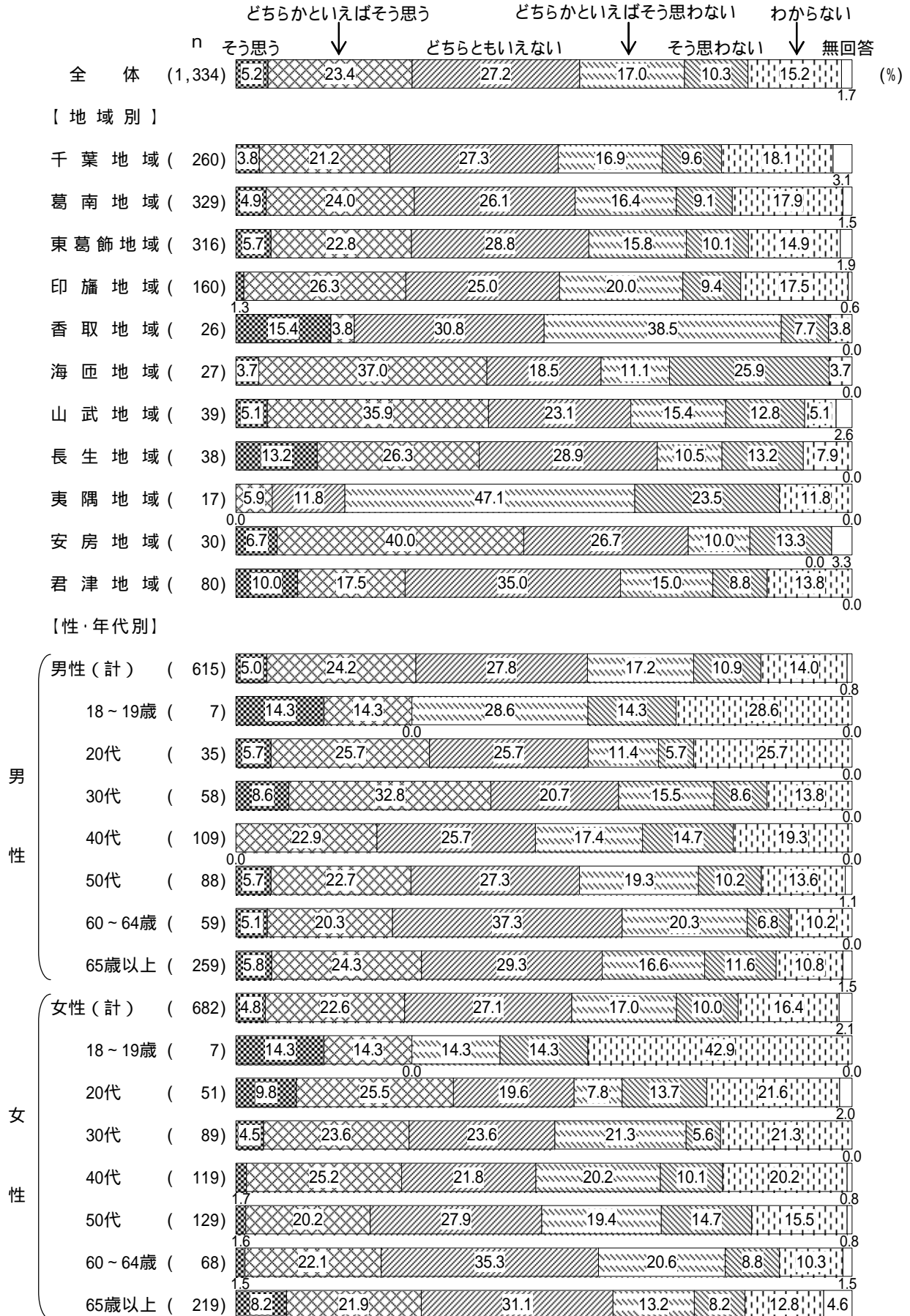
一方、『そう思わない(計)』は“夷隅地域”(70.6%)が7割、“香取地域”(46.2%)が4割台半ばで高くなっている。(図表3 - 8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は男性の30代(41.4%)が4割を超えて高くなっている。

(図表3 - 8)

<図表3 - 8> 高齢者の社会参加について / 地域別、性・年代別

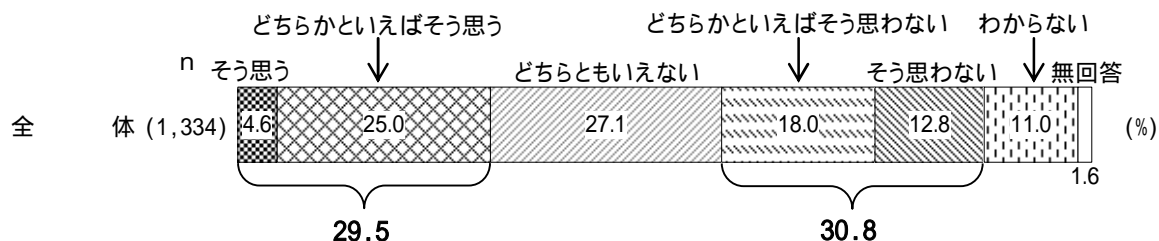


（５）安心して暮らせる地域社会づくりについて

『そう思う（計）』が約３割

問21 あなたは、地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思いますか。（ は１つ）

<図表 3 - 9> 安心して暮らせる地域社会づくりについて

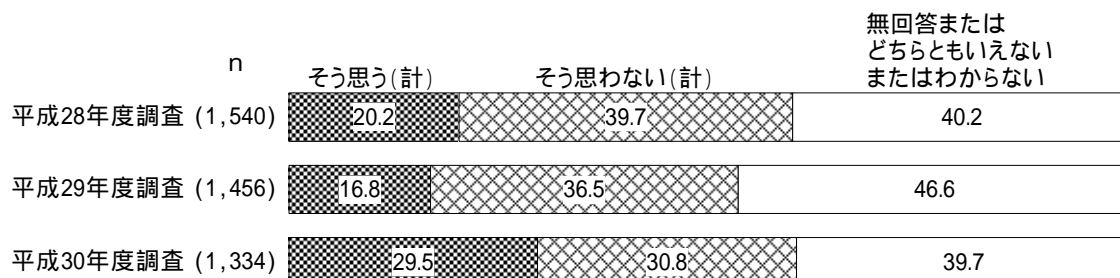


（ ）平成30年度調査から、設問文より「近年、少子高齢化の進行や一人暮らし世帯・核家族世帯の増加等を背景に家庭内や地域の支え合いの力が弱まっていると言われていています。」の一文を削除した。

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.6%)と「どちらかといえばそう思う」(25.0%)を合わせた『そう思う(計)』(29.5%)が約３割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(18.0%)と「そう思わない」(12.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(30.8%)は３割となっている。(図表 3 - 9)

〔参考〕平成28年度・平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



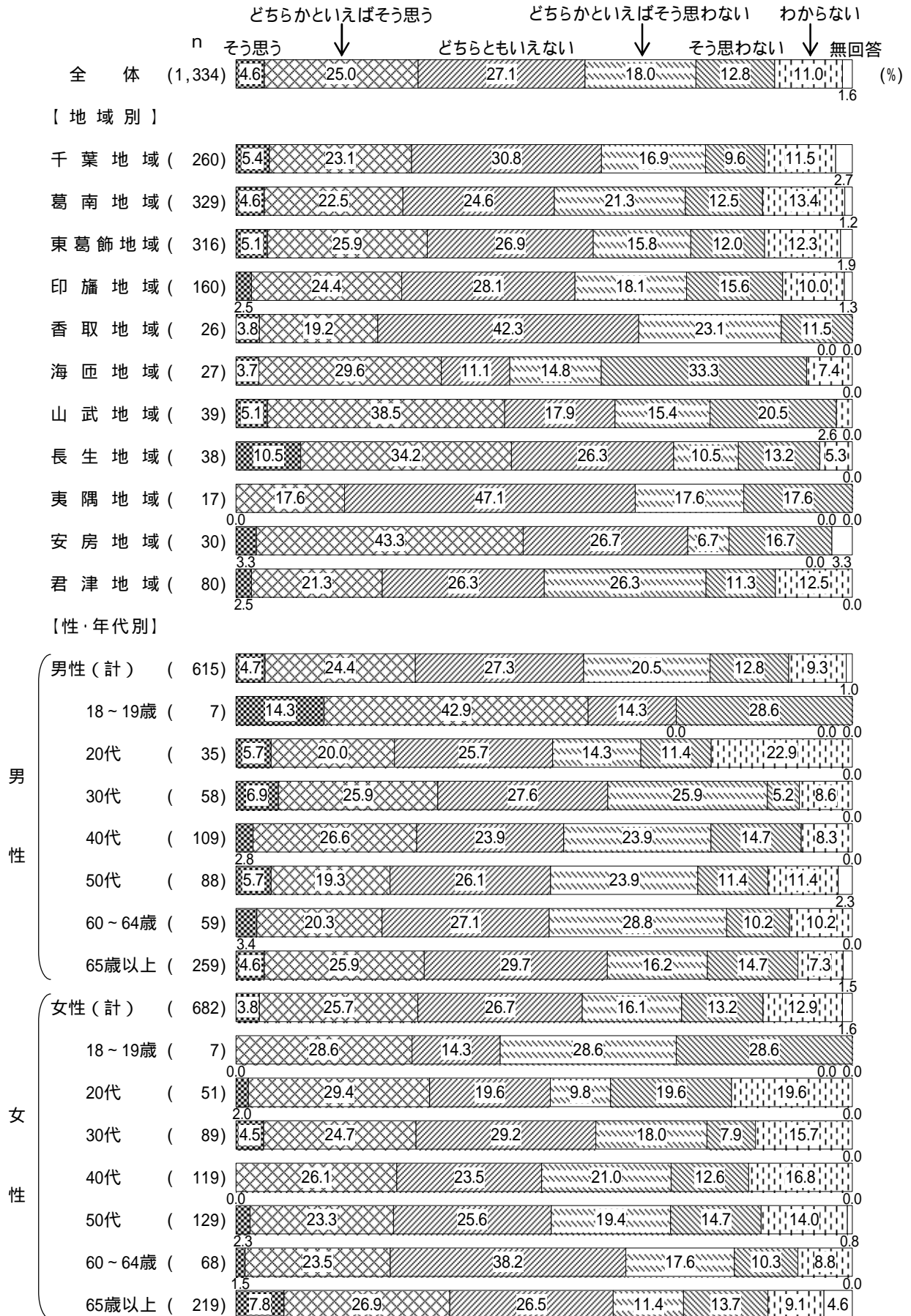
【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“安房地域”（46.7%）と“長生地域”（44.7%）が４割台半ばで高くなっている。(図表 3 - 10)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「どちらかといえばそう思わない」は男性の60～64歳（28.8%）が約３割で高くなっている。(図表 3 - 10)

<図表3 - 10> 安心して暮らせる地域社会づくりについて / 地域別、性・年代別

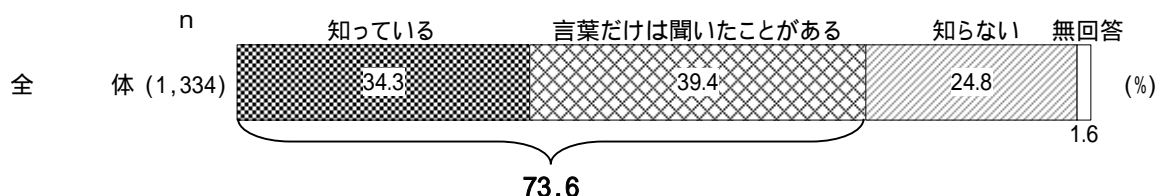


（6）「共生社会」の認知度

『聞いたことがある（計）』が7割台半ば

問22 あなたは、障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。（は1つ）
 「共生社会」とは、具体的には、人々の生活や心において「障害者」という区切りのない社会です。

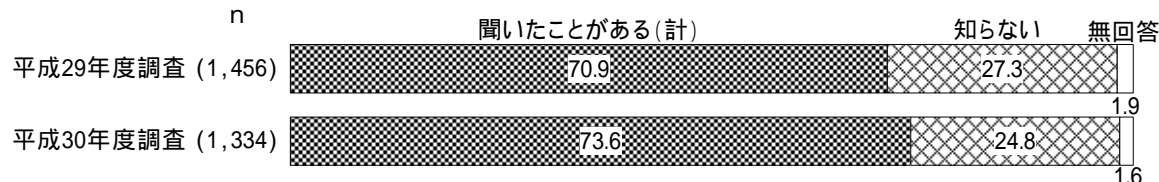
<図表3-11> 「共生社会」の認知度



「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」(34.3%)と「言葉だけは聞いたことがある」(39.4%)を合わせた『聞いたことがある（計）』(73.6%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」(24.8%)は2割台半ばとなっている。(図表3-11)

〔参考〕平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

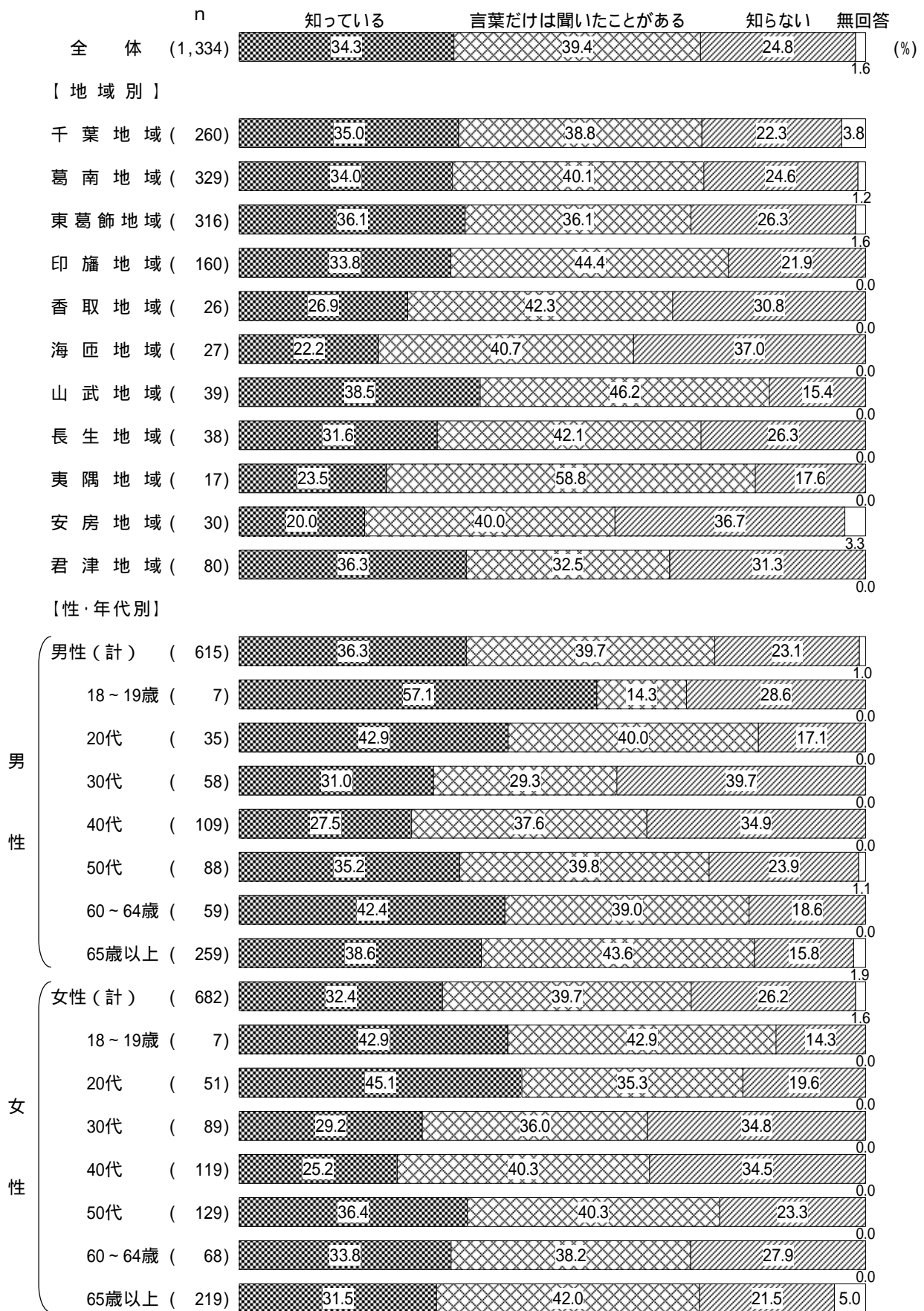
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表3-12)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は男性の65歳以上(82.2%)が8割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」は男性の30代(39.7%)が約4割、男性の40代(34.9%)、女性の30代(34.8%)、女性の40代(34.5%)が3割台半ばで高くなっている。(図表3-12)

<図表3 - 12> 「共生社会」の認知度 / 地域別、性・年代別

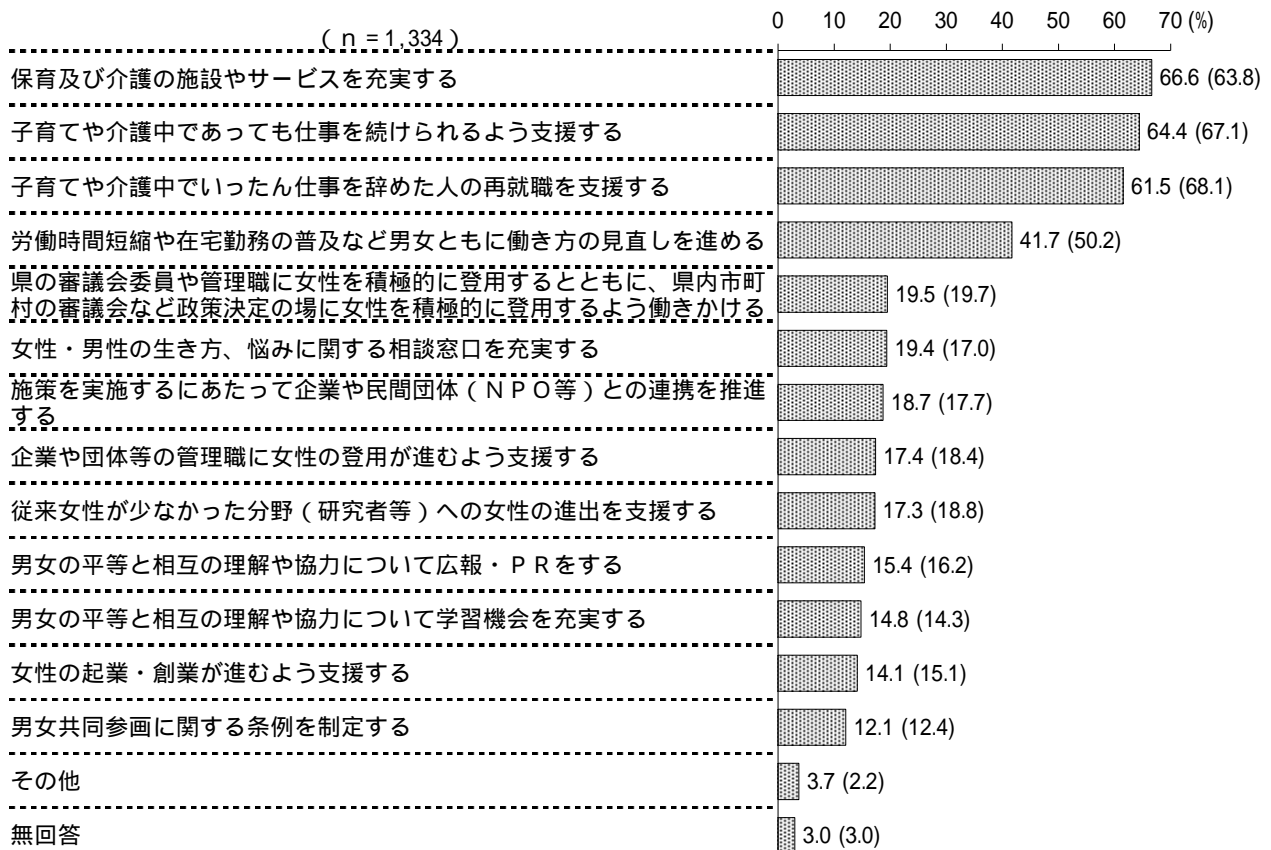


（7）男女共同参画社会を実現するための取組

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」と「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が6割台半ば

問23 あなたは、男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（はいいくつでも）

<図表3-13> 男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）



注) () の数字は平成29年度第55回調査の同様の項目による調査結果 n = 1,394

男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(66.6%)と「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(64.4%)が6割台半ばで最も高く、以下、「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(61.5%)、「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(41.7%)が続く。(図表3-13)

【地域別】

地域別にみると、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」は“印旛地域”(77.5%)が約8割で高くなっている。

「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は“印旛地域”(49.4%)が約5割で高くなっている。(図表3-14)

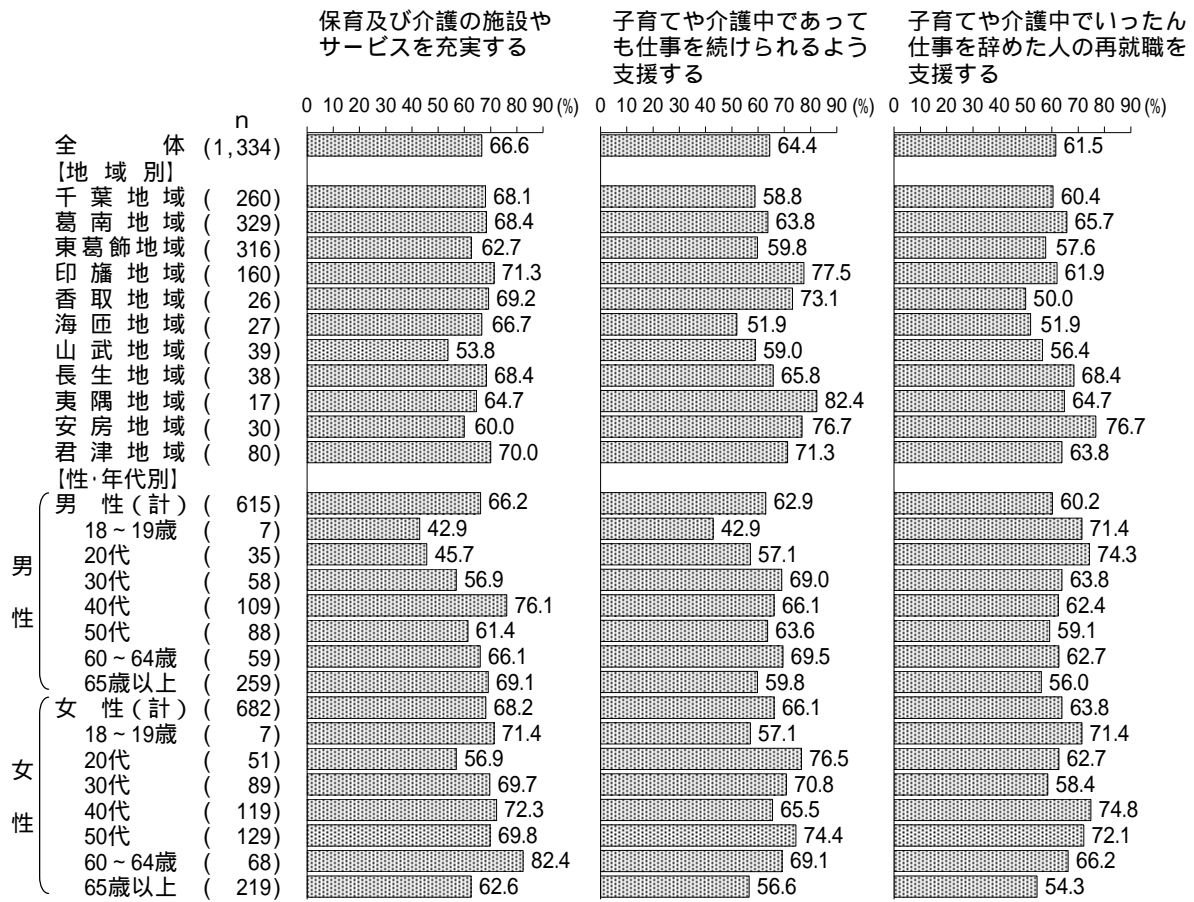
【性・年代別】

性・年代別にみると、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の60～64歳(82.4%)が8割を超え、男性の40代(76.1%)が7割台半ばで高くなっている。

「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は女性の40代(74.8%)が7割台半ば、女性の50代(72.1%)が7割を超えて高くなっている。(図表3-14)

<図表3 - 14> 男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）

/ 地域別、性・年代別（上位6項目）



労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める

県の審議会委員や管理職に女性を積極的に登用するとともに、県内市町村の審議会など政策決定の場に女性を積極的に登用するよう働きかける

女性・男性の生き方、悩みに関する相談窓口を充実する

